

ハンガリーフェスティバル in 愛知

「変わりゆくハンガリーの街と音」

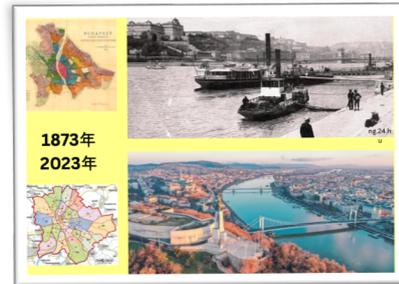
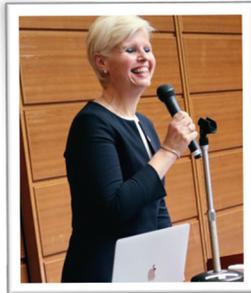
2024年6月30日(日) (14:00~15:45)、名古屋国際センターホールにおいて、リスト・ハンガリー文化センター所長メレーニ・クリスティーナさんとクラリネット奏者コハーン・イシュトヴァーンさんをお迎えして、ハンガリーフェスティバル in 愛知「変わりゆくハンガリーの街と音」が開催されました。

当協会監事の武藤和之氏(元トヨタモーターハンガリー社長)の司会のもと、当協会会長の藤川政人参議院議員、顧問の酒井庸行参議院議員による開会のあいさつに続き、当協会副会長の寺西むつみ愛知県議会議員のあいさつ、来賓としてご臨席いただいた愛知県政策企画局国際監の柴田英昭氏、名古屋国際センター理事長の眞野隆久氏、愛知県国際交流協会総務企画課主任の甲村博美氏のみなさまのご紹介、小牧市長からの祝電の披露がありました。





今回はゲストがお二人ともハンガリー人のうえに、お二人とも日本語がたいへん流暢、かつ、お二人ともユーモアたっぷりに、ジョークやだじゃれも交えてお話しされ、会場を大いに沸かせました。聴衆のみなさまの誰もが楽しまれたことと思います。

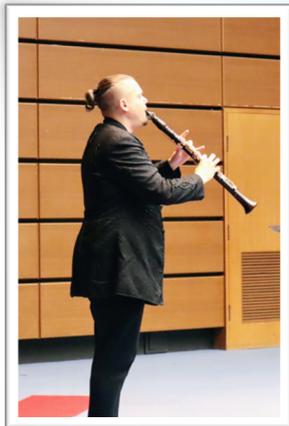


リスト・ハンガリー文化センター所長のメレーニ・クリスティーナさんは、「ブダペスト誕生 150 周年記念、最新ブダペスト「バーチャル」ガイドツアー」と題して、「ドナウの真珠」や「ドナウのバラ」と称されるハンガリーの美しい首都ブダペストを実際に町中を観光しているかのように、たくさんの写真や映像、音楽とともに案内してくれました。

ブダペストは、1873年にドナウ川右岸のブダ、左岸のペスト、ブダ北部のオーブダの三つの町が統合されて誕生しました。ガイドのメレーニ・クリスティーナさんに導かれて、まずは歴史の古いブダ地区に登り、王宮を散策しました。王宮地区は第二次世界大戦で破壊されて大きな打撃を受けました。戦後、再建されることなく放置されていたいくつかの建物が今、次々と復元されてよみがっています。19世紀末に王宮の再建に携わった建築家ハウスマン・アラヨシュの名を冠した「ハウスマン国家事業」と呼ばれるプロジェクトにより、屋内馬場や近衛兵詰所、聖イシュトヴァーンの間などが2021年に完成し公開されています。

ゲレールトの丘からの美しい眺望を楽しんだあと、改修されて新しくなった鎖橋を渡り、ペスト側にある国会議事堂や聖イシュトヴァーン大聖堂などを見学し、ヨーロッパ大陸最古の地下鉄に乗り、オペラ座やカフェ・ニューヨークにも行き、英雄広場にやってきました。背後に広がる市民公園も今、「リゲト・プロジェクト」のもと、大々的な変革が進行しています。かつてスターリン像が立っていたところには国立民族学博物館が建設され、その奥には「音楽の家」と呼ばれるコンサートやさまざまな音楽の催しを楽しむことができるホールが日本人建築家の藤本壮介氏の設計によって建築されました。

まさに今ブダペストはダイナミックに生まれ変わりつつあります。その最新情報を映像や音楽とともにご紹介いただきました。すでに訪れたことがある方もそうでない方も、誰もがぜひ行ってみたいと思われたことでしょう。



クラリネット奏者のコハーン・イシュトヴァーンさんは、「クラリネットの調べ」のみならず、ブロークンな日本語をたくみに操り、会場を煙に巻き、魅了しました。コハーンさんは、音楽活動だけでなく、写真家・映像作家としても活躍されているとのこと、今回、人を楽しませる話術にも長けていること、日本での生活のなかで相当なカルチャーショックを体験されていること、鋭い観察眼とユーモア精神をお持ちであることなどが次々と明らかとなりました。

ご自身で作曲した曲も披露されました。「かぶきもの」はたくみなトークによれば、歌舞伎町をくまどりをしたかぶき者が疾走していく様を表現しているらしい。舞うようにクラリネットと戯れるコハーンさん、「かぶきもの」とはまさにコハーンさん自身ということか？ バッハでは、しばしスマホを見るのはやめて、今、ここ、音楽に集中しましょうと聴衆を瞑想の森へと誘導しました。みなさん目をとじ、日常の些事を忘れ、バッハの調べに没頭しました。聴衆の心をつかみ、揺さぶり、深い瞑想へと誘う素晴らしい演奏、忘れがたい貴重な体験となりました。

演奏された曲

コハーン：かぶきもの

バッハ：アルマンド（パルティータ第2番より）

コハーン：ガーシュインエチュード No.1 サマータイム

グラネーロ：5つの小品

ピアソラ：タンゴエチュード No.1

コハーン：タンゴエチュード No.1

ピアソラ：タンゴエチュード No.3



会場にはハンガリー刺繍サークルの作品も展示されました。会員のみなさんが丹精込めて作成したものです。よく知られているカロチャやマチョーの刺繍の他にも、ハンガリー各地のさまざまな刺繍を見ることができました。

今回も多くの方にご参加いただきました。参加人数は 194 人にのぼりました。そのなかにはゲストのお二人のほかに 4 人のハンガリー人の方や、そのご家族の方々もいらっしゃいました。

「ハンガリーフェスティバル in 愛知」については、中日新聞朝刊県内版（2024年6月18日）にも掲載されました。これをご覧になって来場された方も多かったようです。

ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。

ハンガリーの文化に触れるイベント「ハンガリーフェスティバルIN愛知」（中日新聞社後援）が30日、名古屋市中村区の名古屋国際センターホールで開かれる。

県ハンガリー友好協会が、新型コロナウイルス禍を除き毎年開催している。今回はリスト・ハンガリー文化センター（東京）のメレーニ・クリスティーナ所長が首都ブダペストの観光などを題材に講演したり、クラリネット奏者コハーン・イシュトバーンさんが同

講演や音楽通じ ハンガリー紹介

30日に名古屋で催し

国ゆかりの楽曲を演奏したりする。

そのほか友好協会の会員が作ったハンガリー刺しゅうの展示も予定。協会の志村美佐子理事(73)は「言葉や映像、音楽でハンガリーの魅力を存分に味わってほしい」と来場を呼びかける。

一般千円、中学生以下無料。メール＝ambt@hotmail.co.jp に氏名、住所、電話番号を記載して申し込みが必要。◎志村さん 0568(76)4347 (三宅駿平)

ハンガリーフェスティバルへの来場を呼びかける志村さん＝小牧市内で

〈ハンガリー語講座に入会して〉

園田亜矢子

昨年9月からハンガリー語講座に参加しております。
園田亜矢子です。

私が初めてハンガリーを訪れたのは、2005年、現リスト・フェレンツ国際空港がフェリヘジ国際空港だったころです。夫の仕事の都合により家族4人で4年間ブダペストで過ごしました。

帰国後14年間もハンガリーから離れていましたが、ハンガリー語講座に参加させて頂く事になったきっかけは、ブダペストで仲良くなった友人からの、昨年6月に開催されたハンガリー刺繍サークル作品展の案内状でした。会場でその友人と10年ぶりに再会したときの嬉しさと、久しぶりに目に映る色彩鮮やかな美しいハンガリー刺繍に感動し、懐かしい思いと共に、私のハンガリー愛の火だねが大きくなりました。もう一度ハンガリーへ行きたい！ 必ず行く！！と決心し、すっかり忘れてしまったハンガリー語を学び直し、日本でもハンガリーを感じていたいという気持ちになりました。

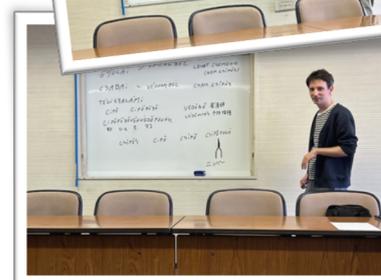
ハンガリー語講座初日は、ハンガリーにゆかりのある方々、刺繍作品展にお誘いしてくれた友人、ブダペストを色々案内して貰い大変お世話になった友人も受講していて、プチ同窓会状態となり、興奮冷めやらぬまま授業が終わりました。

さて、私の語学力はというと、在住時現地の方との会話は、覚えたてのハンガリー語(単語)+英語+ジェスチャー+日本語という謎の文章！？ でも

Jó napot kívánok ! Köszönöm szépen !

Viszontlátásra !

満面の笑顔でこれだけ言えればコミュニケーションは勝手に成立していました…。そんな低レベルな生徒が入会してきても、ジュラ先生は臨機応変に対応してくださり、先輩受講生との疎外感もなく楽しく学んでいます。





授業内容は、ハンガリー関連の SNS、受講生同志の私語が本日のテーマになったり、ボードゲーム、なんでも質問コーナー、ジュラ先生の絵付き解説、時にはお菓子をつまみながら、ハンガリーの思い出話に花が咲いて大はしゃぎしたり、住んでいた当時疑問に思っていた事がこの授業によって解決したり、語学だけでなくハンガリーの社会生活も知る事が出来たり、そして驚きの日本語(漢字)の勉強に繋がったりと、フリースタイルな授業が楽しく、この上なく幸せな時間です。

授業後のランチも楽しみの一つです。何よりもマイペースな生徒に寛大なジュラ先生に感謝します。とても和やかな雰囲気ハンガリー語講座です。ぜひ、一緒にハンガリー語を勉強しませんか？ 優しいジュラ先生とハンガリー愛あふれる生徒6名がお待ちしております。



*ハンガリー語入門講座

講師：チョルダーシュ・ジュラ

場所：名古屋国際センター5F 第5会議室

時間：月2回 第2・第4水曜日 10:00~12:00

会費：3,000円/月

*ハンガリー刺繍サークル

指導：齊藤照美 サークルメンバー

場所：名古屋国際センター3F 第2研修室

時間：毎月第3火曜日 9:30~12:00

会費：1,500円 (材料費別途)

コンサート案内

ピアノの金子三勇士さんとクラリネットのコハーンさんが出演のコンサート

セントラル愛知交響楽団主催

Wコンチェルト 2024 金子三勇士 Vol.3

日時:2024年8月11日(日)13:45 開場 14:30 開演[14:10~プレトーク]

会場:愛知県芸術劇場 コンサートホール

出演:指揮/小松長生(桂冠指揮者) ピアノ/金子三勇士

プログラム

ショパン:ピアノ協奏曲第1番

リスト:死の舞踏

【ソロ曲】

ショパン:革命のエチュード

ショパン:前奏曲「雨だれ」

リスト:コンソレーション第3番

ショパン:英雄ポロネーズ



中部フィルハーモニー交響楽団主催

第94回定期演奏会 北欧シリーズ Vol.6

日時:2024年11月7日(木)18:00 開場 18:45 開演

会場:愛知県芸術劇場 コンサートホール

出演:指揮/秋山和慶(芸術監督・首席指揮者) クラリネット/コハーン

プログラム

ハルヴォルセン:ノルウェー狂詩曲 第2番

ニールセン:クラリネット協奏曲 作品57

シベリウス:交響曲 第2番 二長調 作品43



志村さんちのパプリカです。暑さにめげず、大きく実りますように！

ハンガリー便り



ブダペストに「俳句博物館」が誕生することに！

長年ハンガリー・日本友好協会の会長をつとめられてきたヴィハル・ユディットさんから、友好協会が主体となり、ブダペストに「俳句博物館」を創設する予定であるとのニュースが届きました（現在の新会長はタカーチ・ヨーージェフ Takács József さん）。ヴィハルさんは日本文学者でもあり、俳人でもあります。ハンガリー語の句集を何冊も発表しており、松尾芭蕉「奥の細道」、夏目漱石「坊っちゃん」、川端康成「伊豆の踊子」など数多くの日本文学作品をハンガリー語に翻訳しています。2018年の「ハンガリーフェスティバル in 愛知」では「ハンガリーの俳句」について講演をしていただいたので、覚えている方もいらっしゃるでしょう。

「俳句」の名を冠した文化施設は日本以外には存在しないようで、もし実現すれば日本以外では初の俳句博物館がブダペストに誕生することになります。すでに場所は確保されており、ブダペスト七区の英雄広場や市民公園に近いところで、今回メレーニ・クリスティーナさんが紹介してくださった新しい国立民族学博物館のすぐ近くです。

主たる目的は日本の俳句を紹介し、俳句をハンガリーに広める活動をするにありますが、それ以外のあらゆる日本文化を紹介するセンターにし、ハンガリー・日本友好協会の活動拠点にもなる予定だそうです。

現状は写真のようにまだ何もありませんが、これから改修工事を行い、設備なども整えていくとのこと、完成が楽しみです。



2024年 夏号をお届けします。今年は「ハンガリーフェスティバル in 愛知」を開催することができました。多くみなさまにご参加いただき、盛会でした。久しぶりに顔を拝見できた方も多く、再会を喜びあいました。次は総会でみなさまにお会いできるのを楽しみにしています。

暑さ厳しい折、会員みなさまのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

みなさまからのご意見や情報、記事などをお待ちしています。

愛知県ハンガリー友好協会

E-mail: ambt@hotmail.co.jp

<http://aicsimagyar.sakura.ne.jp/wp/>

<https://www.facebook.com/aicsimagyar>